

福島県の推計人口（福島県現住人口調査年報） 平成23年版の概要

平成24年 3月 8日
企画調整部統計調査課
内線2423

I 県人口

1 総人口及び世帯数

福島県現住人口調査による本県の推計人口（以下、「人口」という。）と世帯数は、平成23年10月1日現在で1,988,995人、716,428世帯となった。

また、平成24年1月1日現在の本県の人口と世帯数は、1,982,991人、716,149世帯となった。

表1 男女別人口、世帯数及び1世帯当たりの人員 (単位：人、%)

	人 口			人口性比	世帯数	1世帯当りの人員
	総 数	男	女			
平成23年10月1日現在	1,988,995	966,516	1,022,479	94.53	716,428	2.78
平成22年10月1日現在	(2,029,064)	(984,682)	(1,044,382)	(94.28)	(720,794)	(2.82)
平成24年 1月1日現在	1,982,991	963,776	1,019,215	94.56	716,149	2.77
平成23年 1月1日現在	(2,027,138)	(983,827)	(1,043,311)	(94.30)	(721,531)	(2.81)

(注) 人口性比=男性人口÷女性人口×100

2 県人口及び世帯数の推移

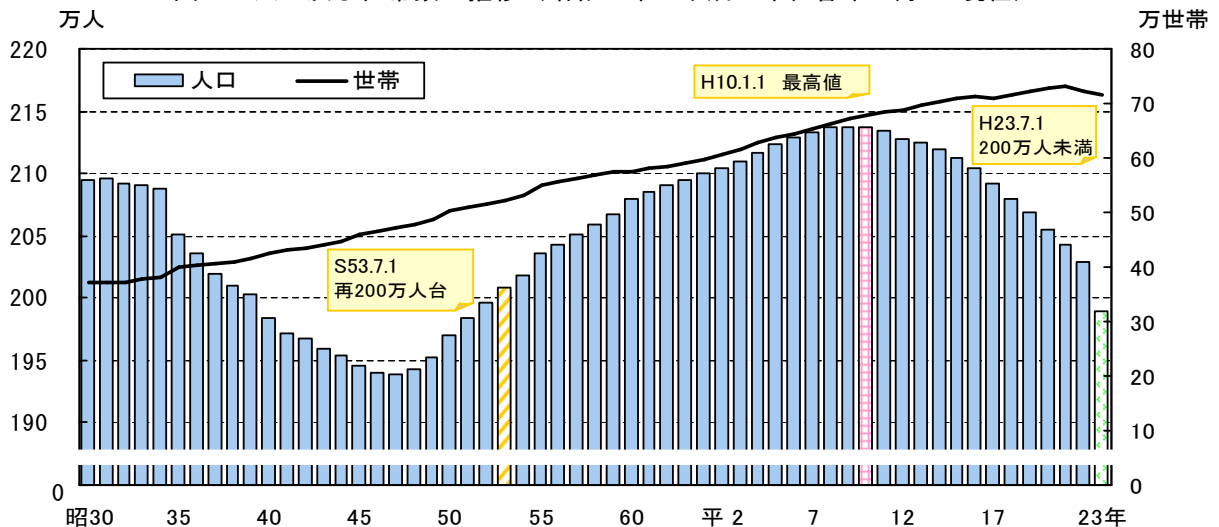
戦前は160万人だった本県の人口は、戦時中の疎開による人口流入や戦後の海外からの引き揚げ、第1次ベビーブームなどから急増し、昭和32年3月に209万9千7百人とピークを迎えた。その後、昭和35年から45年にかけての高度経済成長期には、首都圏への大幅な人口流出のため人口が減少し続け、昭和47年4月には192万7千9百人となった。

しかし、これを底に首都圏からのUターンや第2次ベビーブームなどから増加に転じ、昭和53年7月には再び200万人台を回復し、平成元年11月には、初めて210万人を超えた。平成10年1月には2,138,454人と現在までの最高値を記録したが、その後は減少に転じ、近年では年々減少幅が拡大傾向にあった。

そして、平成23年3月に発生した東日本大震災及び原子力発電所の事故により、県民が県内外に避難を余儀なくされるなど人口流出が続いており、昭和53年以来33年ぶりに200万人を割り込み、平成23年10月1日現在で1,988,995人にまで減少している。

また、世帯数は、戦後ほぼ一貫して増え続けていたが、平成22年から減少に転じている。

図1 人口及び世帯数の推移（昭和30年～平成23年、各年10月1日現在）



3 年齢別人口

平成23年10月1日現在の人口を年齢3区分別にみると、年少人口（0～14歳）が263,028人、（県人口に占める割合13.3%）、生産年齢人口（15～64歳）が1,215,805人（同61.5%）、老年人口（65歳以上）が498,076人（同25.2%）となっている。

総人口に占める構成比を前年と比較すると、年少人口が0.4ポイント低下しているのに対して、生産年齢人口と老年人口は0.2ポイント上昇している。

表2 年齢3区分別人口（各年10月1日現在）

（単位：人、%）

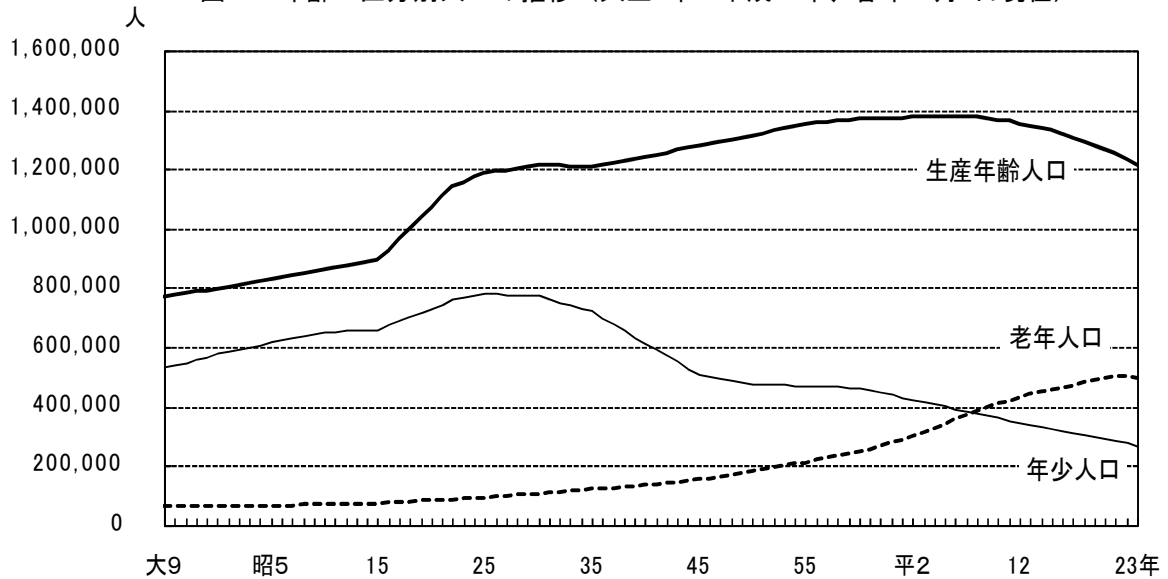
区分別人口 年次	年少人口 (0～14歳)		生産年齢人口 (15～64歳)		老年人口 (65歳以上)	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
平成21年	284,095	13.9	1,252,509	61.4	504,781	24.7
平成22年	276,069	13.7	1,236,458	61.3	504,451	25.0
平成23年	263,028	13.3	1,215,805	61.5	498,076	25.2

（注1）年齢不明があるため、各年齢別人口の合計は同時期の人口に一致しない。

（注2）構成比は、分母から年齢不明を除いて算出している。

また、過去の割合も同様の方式で再計算している。

図2 年齢3区分別人口の推移（大正9年～平成23年、各年10月1日現在）



II 人口動態

1 概況

平成23年の人口動態は、自然増減が10,987人の減、社会増減が33,160人の減となり、その結果、人口増減が44,147人の減となった。

前年と比較すると、自然増減が4,387人の減、社会増減が26,533人の減となり、その結果、人口増減が30,920人の減となった。

2 自然動態

平成23年の自然動態は、出生 15,190人、死亡 26,177人で、自然増減が10,987人の減となった。

前年と比較すると、出生が979人の減、死亡が3,408人の増となり、その結果、自然増減が4,387人の減となった。

3 社会動態

平成23年の社会動態は、転入者が24,662人、転出者が57,822人で、社会増減が33,160人の減となった。

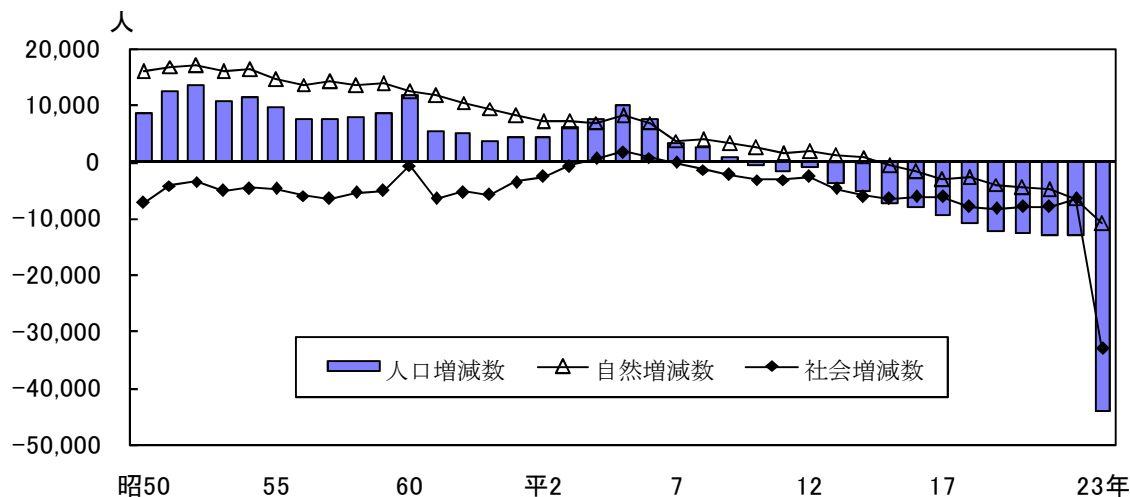
前年と比較すると、転入が4,659人の減、転出が21,874人の増となり、その結果、社会増減が26,533人の減となった。

表3 福島県の人口動態（出生、死亡、転入、転出者数）

(単位：人)

年次	人口動態						人口増減
	自然動態			社会動態			
	出生	死亡	増減	転入	転出	増減	
平成21年	16,476	21,554	△ 5,078	30,763	38,729	△ 7,966	△ 13,044
平成22年	16,169	22,769	△ 6,600	29,321	35,948	△ 6,627	△ 13,227
平成23年	15,190	26,177	△ 10,987	24,662	57,822	△ 33,160	△ 44,147

図3 人口増減数（自然・社会増減数）の推移（昭和50年～平成23年）



Ⅲ 東日本大震災の影響

1 はじめに

福島県の人口は、東日本大震災前の平成 23 年 3 月 1 日現在の人口 2,024,401 人から **41,410 人の減少**であり、平成 23 年を含めた直近 10 年間の人口の推移から見ても平成 23 年 4 月以降の推移は、例年ベースとは異なった推移を辿っている (図 4、表 4 参照)。

これは、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故災害 (風評被害を含む。以下、「原子力災害」という。) の影響によるものである。

なお、以下、「大震災後」とは平成 23 年 3 月期～ 12 月期までの 10 ヶ月を、「大震災等」とは東日本大震災及びその後の原子力災害を示す。

図 4 福島県の人口の推移 (直近 10 年間の月別人口推移)

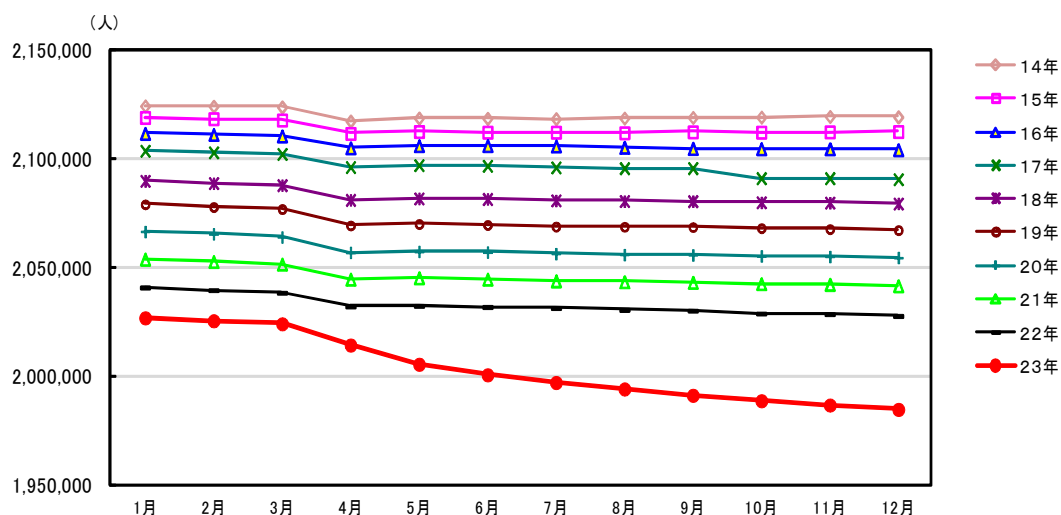


表 4 福島県の各月 1 日現在の人口の推移 (直近 10 年分)

	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年
1月	2,124,525	2,119,218	2,111,891	2,103,888	2,090,107	2,079,273	2,066,796	2,054,095	2,041,051	2,027,138
2月	2,124,350	2,118,640	2,111,411	2,103,209	2,089,057	2,078,064	2,065,701	2,052,970	2,039,782	2,025,773
3月	2,124,014	2,118,031	2,110,737	2,102,474	2,088,123	2,077,161	2,064,332	2,051,792	2,038,598	2,024,401
4月	2,117,551	2,111,866	2,105,267	2,096,406	2,081,339	2,069,570	2,057,199	2,044,914	2,032,302	2,014,603
5月	2,118,942	2,112,785	2,106,232	2,097,333	2,081,973	2,070,252	2,057,606	2,045,516	2,032,604	2,005,800
6月	2,118,755	2,112,426	2,106,308	2,096,964	2,081,749	2,069,815	2,057,322	2,044,845	2,032,117	2,000,953
7月	2,118,630	2,112,431	2,106,098	2,096,304	2,081,108	2,069,102	2,056,671	2,044,096	2,031,631	1,997,400
8月	2,118,879	2,112,213	2,105,479	2,095,900	2,080,823	2,069,011	2,056,210	2,043,663	2,030,813	1,994,406
9月	2,119,258	2,112,652	2,104,997	2,095,926	2,080,735	2,068,873	2,056,107	2,043,451	2,030,463	1,991,506
10月	2,119,382	2,112,489	2,104,850	2,091,319	2,080,186	2,068,352	2,055,496	2,042,816	2,029,064	1,988,995
11月	2,119,694	2,112,591	2,104,794	2,091,319	2,080,066	2,067,943	2,055,342	2,042,505	2,028,778	1,987,040
12月	2,119,485	2,112,747	2,104,391	2,090,823	2,079,667	2,067,433	2,054,800	2,041,844	2,027,973	1,985,024

2 大震災等の影響の推計

大震災等の影響の推計を行った。その結果は、以下のとおりである。

ア 推計の概念式

$$(\text{大震災後の人口増減数}) - (\text{通常要因数}) = (\text{大震災等要因数})$$

○ 大震災後の人口増減数：実績値として既知

○ 通常要因数：過去のデータから回帰分析手法にて推計

イ 福島県計の推計結果

表5は、人口動態の構成要素（出生数、死亡数、転入者数、転出者数）別に、本県の直近9年間の3月から12月までの累計を表示するとともに、その回帰分析結果から導かれる平成23年の推計値（通常要因数）、平成23年実績値及び概念式に基づく大震災等要因数を表記したものである。

また、図5は、表5のA～C行の数値を図示したものである。

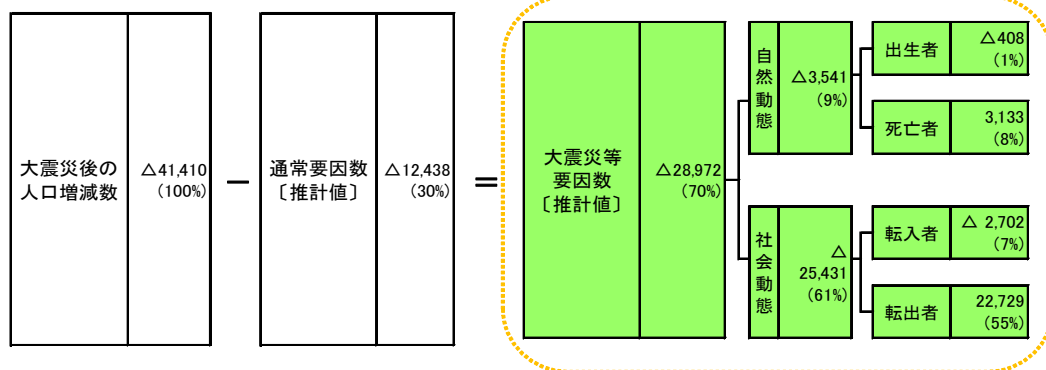
表5 人口動態への大震災等の影響の推計

(単位: 人)

動 態	人口動態							
	人口増減 1)+2)	自然動態			社会動態			
		増減 1)	出生数	死亡数	増減 2)	転入者数	転出者数	
実績値	平成14年	△4,796	1,106	16,325	15,219	△5,902	65,124	71,026
	平成15年	△6,140	3	15,739	15,736	△6,143	64,795	70,938
	平成16年	△6,849	△812	15,477	16,289	△6,037	63,419	69,456
	平成17年	△8,191	△2,295	14,690	16,985	△5,896	61,595	67,491
	平成18年	△8,850	△1,717	14,851	16,568	△7,133	58,851	65,984
	平成19年	△10,365	△2,824	14,471	17,295	△7,541	56,236	63,777
	平成20年	△10,237	△3,152	14,068	17,220	△7,085	54,503	61,588
	平成21年	△10,741	△3,684	13,720	17,404	△7,057	52,706	59,763
	平成22年	△10,774	△4,949	13,655	18,604	△5,825	51,406	57,231
A	平成23年推計値 (通常要因数)	△ 12,438	△ 5,411	13,129	18,540	△ 7,027	49,210	56,237
B	平成23年実績値	△ 41,410	△ 8,952	12,721	21,673	△ 32,458	46,508	78,966
C	実績値と推計値の差 (B-A=大震災等要因数)	△ 28,972	△ 3,541	△ 408	3,133	△ 25,431	△ 2,702	22,729

図5 人口動態への大震災等の影響

(単位: 人)



大震災後の人口増減数を100%とすると、その30%が通常要因数、70%が大震災等要因数との推計結果である。

大震災等は、出生数の減少(408人)と死亡数の増加(3,133人)により自然動態に3,541人の減を、転入者数の減少(2,702人)と転出者数の増加(22,729人)により社会動態に25,431人の減をもたらし、合わせて人口動態に28,972人の減少という影響を及ぼしている。

3 大震災後の方部別人口動態

大震災後の人口動態を方部別に推計した結果について、表6～8に示す。なお、図6～8は、表6～8中の数値をそれぞれの方部別推計結果として図示したものである。

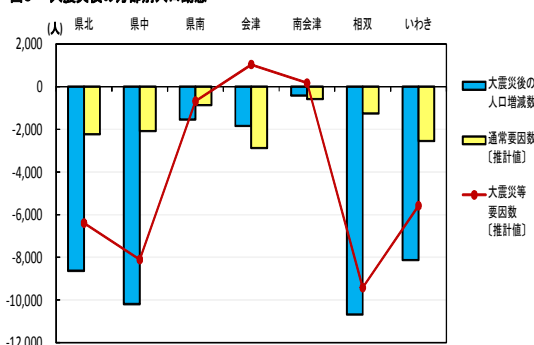
(1) 人口動態の方部別推計結果

大震災等要因による方部別人口動態は、県北が6,395人の減、県中が8,105人の減、相双が9,423人の減、いわきが5,581人の減と通常要因数のそれぞれ2.9倍、3.9倍、7.5倍、2.2倍の著しい減少となっている。県南にあっては、通常要因数のおよそ8割程度に当たる679人の減少となっている。一方、会津及び南会津においては、通常であれば人口減少（会津が2,873人の減、南会津が585人の減）であるところ、それぞれ、1,040人の増、171人の増となっている。

表6 大震災後の方部別人口動態 (単位:人)

方部	大震災等要因数 〔推計値〕	大震災後の 人口増減数	通常要因数 〔推計値〕
県北	△ 6,395	△ 8,629	△ 2,234
県中	△ 8,105	△ 10,194	△ 2,089
県南	△ 679	△ 1,541	△ 862
会津	1,040	△ 1,833	△ 2,873
南会津	171	△ 414	△ 585
相双	△ 9,423	△ 10,672	△ 1,249
いわき	△ 5,581	△ 8,127	△ 2,546
計	△ 28,972	△ 41,410	△ 12,438

図6 大震災後の方部別人口動態



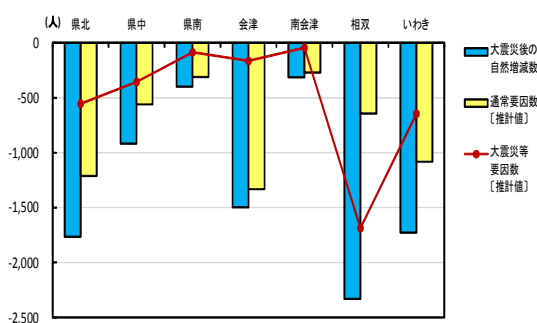
(2) 自然動態の方部別推計結果

大震災等要因による方部別自然動態は、相双が1,687人の減、いわきが646人の減、県北が555人の減、県中が356人の減と各方部とも人口減少に陥っており、特に、通常要因の2.6倍の値を示す相双の減少が著しい。これは、大震災による死者数が1,590人であることに起因している。

表7 大震災後の方部別自然動態 (単位:人)

方部	大震災等要因数 〔推計値〕	大震災後の 自然増減数	通常要因数 〔推計値〕
県北	△ 555	△ 1,765	△ 1,210
県中	△ 356	△ 917	△ 561
県南	△ 87	△ 399	△ 312
会津	△ 165	△ 1,498	△ 1,333
南会津	△ 45	△ 315	△ 270
相双	△ 1,687	△ 2,331	△ 644
いわき	△ 646	△ 1,727	△ 1,081
計	△ 3,541	△ 8,952	△ 5,411

図7 大震災後の方部別自然動態



(3) 社会動態の方部別推計結果

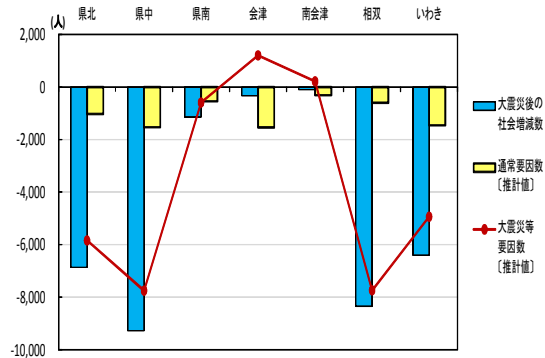
大震災等要因による方部別社会動態は、県北が5,840人の減、県中が7,749人の減、相双が7,736人の減、いわきが4,935人の減と著しい転出超過に陥っている。県南についても592人の転出超過の状況である。

一方、会津と南会津においては、通常であれば社会動態が減少（会津が1,540人の減、南会津が315人の減）であるところ、それぞれ1,205人の増、216人の増となっており、転入超過の推計結果を得た。

表8 大震災後の方部別社会動態 (単位:人)

方部	動態	大震災等要因 〔推計値〕	大震災後の 社会増減数	通常要因 〔推計値〕
県北		△ 5,840	△ 6,864	△ 1,024
県中		△ 7,749	△ 9,277	△ 1,528
県南		△ 592	△ 1,142	△ 550
会津		1,205	△ 335	△ 1,540
南会津		216	△ 99	△ 315
相双		△ 7,736	△ 8,341	△ 605
いわき		△ 4,935	△ 6,400	△ 1,465
計		△ 25,431	△ 32,458	△ 7,027

図8 大震災後の方部別社会動態



4 県内外との移動状況

大震災後の本県民の移動状況を、県内外との転入出状況から示す。

(1) 県内の方部間移動状況

県内の方部間での移動状況を表9に示す。

県内で計 25,091 人の移動があり、相双方部においては、3,397 人のうち、相双方部内で移動の 842 人を除き、2,555 人が他方部へ移動(転出)している。同様に、県北が(6,394-2,801=)3,593 人、県中が 3,824 人、県南が 1,150 人、会津が 1,713 人、南会津が 392 人、いわきが 1,944 人他方部へ転出している。

一方、転入は、県北が(6,675-2,801=)3,874 人、同様に、県中が 4,184 人、県南が 1,308 人、会津が 2,500 人、南会津が 439 人、相双が 917 人、いわきが 1,949 人他方部から移動してきている。

この結果、県内方部間の社会動態は、県北が(3,874-3,593=)281 人、同様に、県中が 360 人、県南が 158 人、会津が 787 人、南会津が 47 人、いわきが 5 人の転入超過となっている。ただ、相双だけは、1,638 人の転出超過となっている。

表9 県内の方部間での転入出者数

(単位:人)

従前地 \ 転出先	福島県	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき
福島県	25,091	6,675	7,607	2,475	4,144	482	1,759	1,949
県北	6,394	2,801	1,597	263	763	119	341	510
県中	7,247	1,448	3,423	662	953	79	174	508
県南	2,317	217	646	1,167	101	27	36	123
会津	3,357	571	632	94	1,644	159	94	163
南会津	435	80	84	17	177	43	11	23
相双	3,397	980	523	131	279	20	842	622
いわき	1,944	578	702	141	227	35	261	—

注) 行の数値は転出を、列の数値は転入を表す。例えば、県北方部からいわき方部への転出は(行を見て)510人である。一方、いわき方部からすれば、県北方部からの転入が(列を見て)510人ということになる。

(2) 県外との移動状況

図9は、大震災後の方部別・県外との転出入状況について、表10及び表11の数値を同一図面に表したものである。折れ線グラフを見ると、転入及び転出とも関東、北海道・東北、中部の順に移動が多くなっている。

なお、表10の数値から表11の数値を差し引いた社会動態は、総数で、県北が(5,022-12,293=)7,271人の減、同様に、県中が9,606人の減、県南が1,289人の減、会津が1,092人の減、南会津が142人の減、相双が6,798人の減、いわきが6,560人の減と、全ての方部で県外への転出超過となっている。特に、県北、県中、相双、いわきの各方部の転出超過が著しく高くなっている。

図9 大震災後の方部別・県外との転入出状況

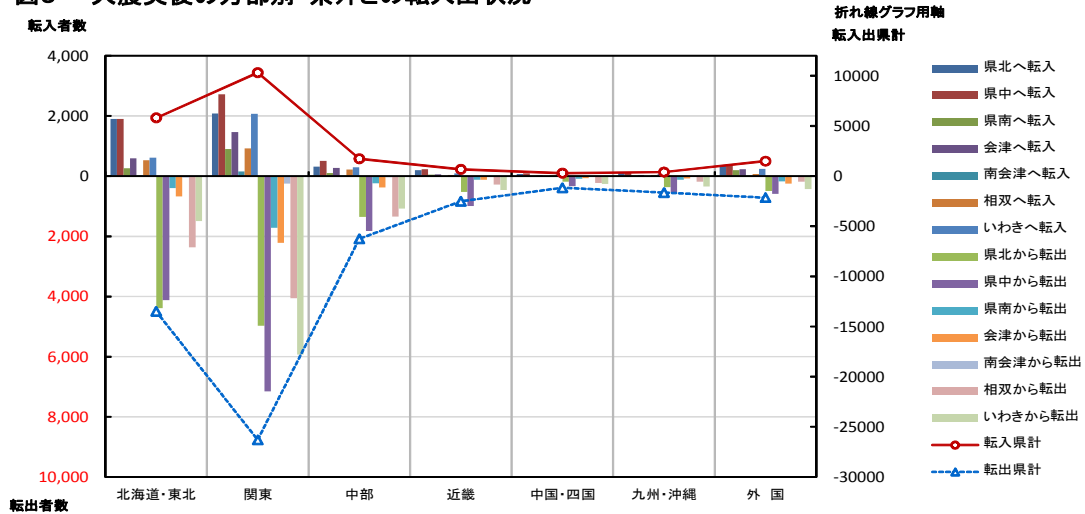


表10 県外からの転入者数

(単位: 人)

従前地 \ 転入先	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	県計
北海道・東北	1,906	1,896	262	590	31	524	607	5,816
関東	2,079	2,723	900	1,469	156	921	2,071	10,319
中部	320	508	102	273	19	219	293	1,734
近畿	195	231	47	57	8	43	98	679
中国・四国	68	91	19	27	3	32	57	297
九州・沖縄	106	119	30	39	3	39	69	405
外国	348	390	193	228	17	72	242	1,490
総数	5,022	5,958	1,553	2,683	237	1,850	3,437	20,740

表11 県外への転出者数

(単位: 人)

従前地 \ 転出先	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	県計
北海道・東北	4,385	4,123	397	674	53	2,365	1,486	13,483
関東	4,972	7,156	1,720	2,217	249	4,054	5,933	26,301
中部	1,358	1,824	237	373	40	1,343	1,080	6,255
近畿	528	995	114	119	11	278	464	2,509
中国・四国	189	331	88	69	1	226	261	1,165
九州・沖縄	369	542	119	76	6	191	338	1,641
外国	492	593	167	247	19	191	435	2,144
総数	12,293	15,564	2,842	3,775	379	8,648	9,997	53,498

(3) 年齢区分別・男女別の大震災後と前年同期間との社会増減比較

大震災後の社会増減数から前年同期間の社会増減数を差し引き、年齢区分別・男女別に示したのが、図 10 及び表 12 である。

なお、表記の数値は、年齢区分別・男女別の比較をするため、それぞれの社会増減数を大震災年又は前年の3月1日現在の各人口で除するとともに、その数値の差をポイントとして表示したものである。

社会増減比較では、0～4歳の年齢区分において前年同期間よりも著しく転出超過に陥っており、転出超過の比率にして概ね5.6ポイント高くなっている。

また、5～14歳、20～34歳の年齢区分においても、前年同期間より概ね2.4～2.9ポイント転出超過の比率が高くなっている。

男女別では、特に、25～34歳の年齢区分において、女性の転出超過の比率が男性より高くなっており、その差は概ね1～1.2ポイントとなっている。

図10 年齢区分別・男女別の大震災後と前年同期間との社会増減比較

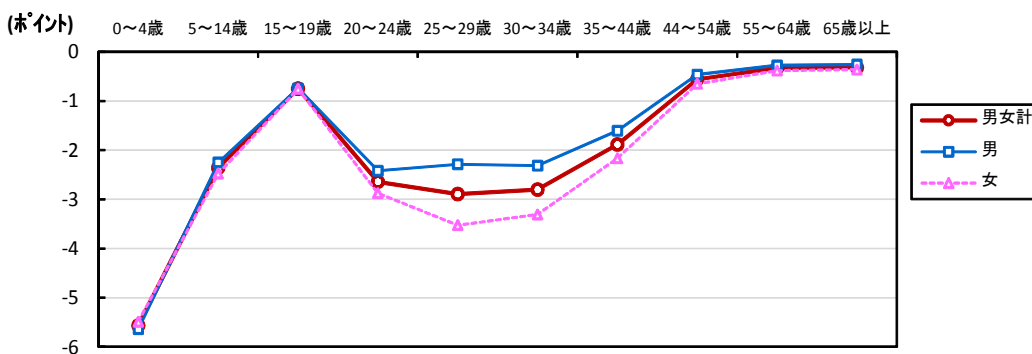


表12 年齢区分別・男女別の大震災後と前年同期間との社会増減比較

(単位:ポイント)

平成23年3～12月期	0～4歳	5～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～44歳	44～54歳	55～64歳	65歳以上	不詳	総数
男女計	△ 5.57	△ 2.36	△ 0.75	△ 2.64	△ 2.89	△ 2.80	△ 1.88	△ 0.56	△ 0.33	△ 0.32	△ 2.55	△ 1.32
男	△ 5.64	△ 2.25	△ 0.75	△ 2.42	△ 2.29	△ 2.32	△ 1.61	△ 0.47	△ 0.28	△ 0.26	△ 1.14	△ 1.22
女	△ 5.49	△ 2.48	△ 0.75	△ 2.88	△ 3.53	△ 3.31	△ 2.17	△ 0.65	△ 0.38	△ 0.36	△ 5.21	△ 1.41
男女差(女-男)	0.15	△ 0.22	△ 0.01	△ 0.46	△ 1.24	△ 0.99	△ 0.56	△ 0.19	△ 0.11	△ 0.11	△ 4.08	△ 0.20